第1回模擬授業　「盲点を探す」　報告書

2014年5月17日実施

5班　浅川　岳

榎本光太

永井雅也

吉田羽吹

1・実験の目的

中学理科における生物の構造について理解と興味を深めるため、盲点の認識によって驚きを感じ、新たに理科に対して関心を高め、正しく盲点について理解をする。

2・準備物と実験費用

　裏面に黒の十字と赤い丸（これらの二つの間の距離は10センチメートル程度）をかいた半分に切った折り紙を使用した。

　折り紙一枚につき約1円程度のため、筆記用具の費用を除けば一人あたり0.5円ほど実験であった。

3・実験と結果

　左目を閉じて、黒の十字を右目で見ながら、折り紙を近づけたり遠ざけたりすると、ある距離で赤丸が消える。そこが右目の盲点である。

　同様に右目を閉じて、左目で十字を見て同じ行程を行うと左目の盲点も探すことができる。

4・理論

　眼球の中には、光の刺激を受容する視細胞が網膜上に存在し、この視細胞の束が眼球外へと出て行く部分には視細胞が存在しないため、その部分では物を見ることができず、そこが盲点である。

5・板書



6・よかった点

　生徒側の人たちから上げられたよかった点としては、声の出し方、授業の構成、実験の明確さが挙げられた。

7・改善点とそれに伴う考察

主な改善点として多くの班から挙げられたのは、板書についてであって、色が少なかったり、字・図が分かりにくい、ノートが取りずらいなどの意見が挙げられた。この点については、時間が無く、焦って書こうとしたために荒い板書となってしまい、それは次の他者評価にも低い評価として現れていたので、次回からは板書に注意を置こうと思う。

また、光がレンズを通るときに屈折しないのか、という質問があったので回答したいと思う。もちろん光がレンズを通過する際に、光が通るレンズの位置によって種々の屈折が起こるが、今回の実験の場合、その屈折した光が集まる部分が盲点であるならば、もちろんそれをみることはできない。今回このような質問が出たのは、板書の図において赤い丸の中心からレンズの中心を通り盲点へと直線を引いたことからこのような質問が出たのだと考える。

8・[他者評価のカード](../Documents/%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88%E3%81%AA%E3%81%A92%E5%9B%9E%E7%94%9F/%E7%AC%AC%E4%B8%80%E5%9B%9E%E6%A8%A1%E6%93%AC%E6%8E%88%E6%A5%AD%EF%BC%95%E7%8F%AD.xlsx)　評価者17名（学生16名、指導教員1名）

|  |  |
| --- | --- |
| 評価内容 | 評価平均 |
| ①服装や話し言葉は教員として適当だったか？ | 4.1 |
| ②声は生徒の方に向かって発せられ、聞き取りやすかったか？ | 4.7 |
| ③発問は生徒が考えれば答えられるように工夫されていたか？ | 3.8 |
| ④板書の文字や数字、図などは丁寧で読みやすかったか？ | 3.0 |
| ⑤板書は学習者がノートを取りやすいように配置されていたか？ | 2.8 |
| ⑥実験や観察は現象や対象物がはっきり確認できるものだったか？ | 4.5 |
| ⑦実験は学習内容の理解・定着の助けになるものだったか？ | 4.5 |
| ⑧立ち位置（黒板や演示実験が隠れる等）や机間巡査は適当だったか？ | 4.1 |
| ⑨授業の事前準備はしっかりとされていたか？ | 4.2 |
| ⑩生徒の反応を確認しながら授業を進めていたか？ | 4.1 |
| 評価内容の平均 | 4.0 |

　全体的に高めの評価をしてもらったようにも見えるが、やはり目を引くのは板書についての低評価であり、これらの点については十分に改善する余地が存在するので次回以降の模擬授業に生かして行きたい。

　それとは逆に、話し方や実験のやり方については以上の結果から自信を持つことができたので、この点はさらに伸ばして行きたいと思う。